

〔明良洪範十一〕世ノ諺ニ孝行ニハ水ガ付クト云リ、或老人ノ物語リニ、堀美作守親常ノ家人長瀬某ト云フ者、至孝成者ニテ、老母ニ孝ヲ盡セリ、妻モ亦孝ナルモノニテ、夫婦シテ老母ニ仕フルコト尋常ナラズ、コノ長瀬妻ヲ迎ントセシ時、容顔ノ美惡ニモ拘ラズ、身分柄ニモ拘ハラズ、氏ニモ拘ハラズ、只孝心ナル女ヲ迎ント願ヒシニ、果シテカ、ル妻ヲ得タリ、此邊スベテ水宜シカラズ、井戸ハ有テモ、飲水ニナラヌ濁水也、故ニ近隣ノ者ハ、皆遠方ヨリ清水ヲ汲セ、或ハ買水ヲ用キナドシケル、長瀬何ノ心モナク、門前ニ井ヲ掘リ、酒桶ノ底ヲトリ、ソレヲ二ツ伏セテカハトス、サレバサノミ深キ井ニモ有テド、水ハ至テ清水ニシテ、遠方ヨリ汲スル水ヨリモ、買水ヨリモ、猶ヨキ水ニテ、是ヨリ近邊ノモノ皆此水ヲ用ル故、長瀬ガ門前ノ井、未明ヨリ群集セリ、

〔瓦礫雜考下〕兄弟他人の始

この諺は、兄弟各々枝葉出來ぬる末がするには、他人となれることにて、現在の兄弟はや他人のきざしとて、疎くせむことかは、羅大經が鶴林玉露に、陶淵明贈長沙公族祖云、同源分派、人易世疎、慨然寤歎、念茲厥初、老蘇族譜引云、吾所與相視如塗人者、其初兄弟也、兄弟其初一人之身也、悲夫と、あるも同じ理をいへり、

〔平家物語一〕すゝきの事

似るを友とかやの風情にて、忠盛のすいたりければ、かの女房もゆうなりけり、

〔相州兵亂記四〕高野臺合戦之事

武州江戸ノ住人太田源六資高ト云人、大力剛兵ノ譽レ八州ニ双ビナシ、凡三十人シテ動シガタキ大石ヲ輕ク動シケルシタ、カ者ナリケリ、物ハ類ヲ以テ集ルコトナレバ、其ノ弟ニ太田源三郎、同源四郎トテ、大力ノ兵ドモアツマリテ云ケルハ、略下

〔太閤記三〕信長公御葬禮之事